

体育学部体育学科

【教員養成の目標】

体育学部体育学科では、体育・スポーツの意義や役割、共生社会の在り方、豊かなスポーツライフの探究など、社会のニーズに呼応し、体育実技の実践と理論的指導ができる人材、学校体育・生涯スポーツ・健康教育などに積極的に貢献できる専門性の高い人材を養成することを教育研究上の目的としており、これに基づき以下の能力を有する教員の養成を目標とする。

1. 体育・スポーツに関する専門的かつ実践的知識・技能と社会のリーダーとして活躍するための教養を身に付け、学修成果を状況に応じて誠意を持って活用する力を有する教員
2. 習得した体育学の知識・技能をもとに、それらを他者に分かりやすく伝えたり、社会の様々な要請に活用したりすることができる能力を有する教員
3. 日進月歩の体育・スポーツに関する知識を学び続けるとともに、自らの技能を不断に磨くことを基盤にしながら、社会の諸問題の解決に積極的に取り組もうとするなど、困難に立ち向かう姿勢を有する教員
4. 本学科で学修した知識・技能を生かし、他者と協調し、意欲的に社会に貢献する教員

【当該目標を達成するための計画】

体育学部体育学科の教員養成の目標を達成するために、教育課程の編成においては、学習効果を高めるために講義や実技、実習等をバランスよく配置する。

また、学校教育や教職についての実践的理解を深めるために「教職特別講座」を開講する他、学校体育コースでは多摩市内の小中学校での体験的な学びである「教職インターンシップ」を学位プログラムにおいて必修科目に位置付ける等、「理論と実践の往還」を重視した教育課程を編成する。

カリキュラム外においても、学生の自主的な教職に関する勉強会を開催するなど、学生の自主性を育む取り組みを実施する。さらに、当該勉強会においては現職の卒業生を講師として招き、学生との交流の機会を設けるなど、教職に関するキャリア教育の充実を図る。

また、国土舘大学は体育学部体育学科の所在地となる多摩市との連携に関する協定を締結しており、学校現場でのボランティア等を奨励し、教職という職務の責務を実体験のもとに深めるなど、様々な体験を通し、実践力養成を図る。

学生はこれらの大学における4年間の学びと学外における実践的な学びを通して、教師に求められる資質能力を身に付ける。